



# プロジェクトニュース

## シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「県議会のエンジニア ガーナへ行く」号 2011年10月27日 (Vol.21)

目次です。

はじめに

### 1. 現場活動の実況中継

実況中継 1. 県議会のエンジニア ガーナへ行く

実況中継 2. 熱血ファシリテーター

実況中継 3. ジャングル奥の村で

### 2. プロジェクトの進捗報告

2.1 研修計画 ー北部州他3県への事業展開準備開始ー

2.2 県開発モデル構築：フィーダー道路パイロットプロジェクトー2年目の挑戦ー

2.3 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト ーもどかしくも素晴らしい日々ー

2.4 業務調整 ー赴任3ヶ月を経過してー

### 3. コラム：シエラのチカラ

3.1 ピッチの料理人

3.2 光の道！？

3.3 速報：シエラレオネ消防隊のチカラ



シエラレオネ



プロジェクト対象県



\*プロジェクト HP にもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

## はじめに

10月中旬に一時帰国から戻りました。シエラレオネの空港に到着して、預け荷物が出てくるまで待っていると、現地の高い気温と大勢の乗客と密室にいる熱気がコラボレーションしてか、滝のように流れる汗。陽気に話しかけてくるシエラレオネの空港で働く人々。空港からフリータウンまではボートに乗って移動します。乗客よりも先にボートに乗り込んで、家路を急ぐボート会社の従業員。どれもシエラレオネに戻ってきたことを思い出させてくれます。

遠くまで見える景色、足元を見るとカタツムリがいたり、小鳥がさえずっていたり、グアバやマンゴの木、パイナップルが実をつけている風景が目飛び込んできます。どれも新鮮に写ります。自宅のトイレで蚊にお尻を刺されたり、ダニに体を刺されたり、「あ～、そういえば、こちらの生活はこんなことがあったかな～」と懐かしく思えてきます。

現地に駐在していると、日本では心配しなくてもいいこと、滅多にない出来事に遭遇することがあります。一時帰国から戻った早々に職場のビルで火災が起こり、避難することになったり（幸いけが人は一人もいませんでした。詳しくはコラム3をご一読下さい）、チャンピオンフライ（東アフリカではナイロビフライと呼ばれています）という虫に寝ている間に刺されたらしく、目の周りや首の周辺が腫れ上がりました。チャンピオンフライにノックアウトされてしまったわけです。目は腫れたままでしたが、次のラウンド（翌朝）で立ち上がり、無事活動を再開しています。



チャンピオンフライ（ナイロビフライ）

現地で様々なことを体験して改めて、プロジェクト関係者全員の活動が健康第一、安全第一であると再認識されます。これも火災やチャンピオンフライが運んでくれたメッセージかもしれません。

雨期も終わりに近づいているシエラレオネでは、9月に佐藤専門家（村落開発）が加わり、専門家5名体制となりました。本プロジェクトの支援体制も強力になり、カウンターパートである県議会及び本省への技術移転も強化されます。また、JICA本部の岩崎職員を新人職員研修の一環として本プロジェクトにて1週間程度受け入れました。岩崎さんが執筆したコラム記事も掲載しておりますので、ご一読ください。

プロジェクトの活動地域ですが、先方政府の要請に基づいて、カンビア県とポートロコ県に加え北部州他3県に展開する計画になっています。この9月から反町専門家を中心に、3県に赴き県議会職員の研修事業準備を開始しました。また、カンビア県県議会職員には宿谷専門家と共にガーナの国際セミナーに出席していただき、技術的な学びや関係者とのネットワーク構築に尽力していただきました（詳しい活動については、「現場活動の実況中継」及び「プロジェクトの進捗報告」を是非ご一読ください）。

このようにプロジェクトは生き物のように、現地・日本の関係者皆さんと共に動いています。プロジェクトが終わった後も、「仕事に取り組む精神や姿勢」や「住民と行政が協力すれば、限られた資源でも、効果の大きい事業ができる仕組み」を現地にそして現地の人々に少しでも残せるよう、専門家チームは引き続き一丸となって、今日も前進していきます。

(平林リーダー)

\*\*\*\*\*

## 1. 現場活動の実況中継

### 実況中継 1. 県議会のエンジニア ガーナへ行く – 県開発モデル構築：フィーダー道路改修事業 –

県議会が実施するプロジェクトの技術分野を担当するのがワークスエンジニアです。彼らは2010年7月から各県に配置されています。ワークスエンジニアは県議会が実施する学校、保健施設、コミュニティ道路/カルバートの建築や改修等の事業のために、調査、設計、積算、施工監理を担当します。

フィーダー道路改修プロジェクトの重要なカウンターパートの一人であるカンビア県のワークスエンジニアのジボ氏は、一生懸命に業務に取り組んでいますが、これからの能力強化が一層期待される職員です。



現場視察でガーナの業者に熱心に話を聞くジボ氏（左）

さて、今回9月5～9日の日程でジボ氏と、ガーナの首都アクラにおいてILO（国際労働機関）が主催した第15回LBT (Labour Based Technology)セミナーに出席してきました。LBTとは人力による施工技術で、おもに地域住民を雇用しフィーダー道路工事等を実施するものです。特に重機が満足に無く、住民の収入も限られるアフリカでは積極的に活用され、ILOがマニュアル化し適切な技術の普及に努めています。フィーダー道路の維持管理は県議会の担当でもあり、是非今回のセミナーで多くのことを学んでほしいところです。

まず、飛行機に乗るのが初めてのジボ氏。不安一杯でしたが、夜に着いた先のアクラは、フリータウンと違い電気で明るいことに感動していました。セミナーでは、29ヶ国(主にアフリカ)から360人、16ヶ国の公共省系の大臣も参加し、課題や技術的展開について発表、討論しました。

政策等の難しい話も熱心に聞いていたジボ氏。研修に参加すると県議会職員はレポートを作成しなくてはなりません。どの報告についても要点のメモを取っていました。特に日本人が発表した土のうによる道路修復技術に関心が高く、技術的特徴を何回も繰り返し話していました。

また、セミナーの醍醐味は、様々な国から来たエンジニア等との交流です。シャイなジボ氏ですが、それでも数人のガーナ人エンジニアと仲良く、連絡先を交換していました。どのようにガーナが発展したのか、非常に興味があったようで、それについても複数の人に質問していました。帰国後はレポートの仕上げです。3-4回の校正の結果、何とか終了しました。早速上司に提出です。



セミナー会場でプレゼンを聞くスーツ姿のジボ氏

今回のように、身近で発展している国への研修も本邦研修とは違った意味でモチベーションも上がり、帰国後の仕事に関してもいっそう熱が入ってきたようです。

私としても、研修中にジボ氏と夜までレポートを作成したり、県の開発に対する技術者の重要性、必要な心構えについて滔々と話をしたりと、いい機会でした。これを機に更なる今後の活躍に期待したいと思  
います。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

\*\*\*\*\*

## 実況中継 2. 熱血ファシリテーター：カンビア県計画担当官 ー研修計画事業ー

モデルワードプロジェクトの計画段階でキーパーソンとなるのが県議  
会の計画担当官（DPO）です。ポートロコ県及びカンビア県両県で実施  
した研修は、DPOからの意見をもとに、研修の内容が決められました。

中でもカンビア県のDPOのマンサリコ氏は現場の知識が豊富で、今  
回の研修を計画する際に様々なアイデアを提案しました。

研修の現場では、ファシリテーターとして参加者から積極的な発言を  
促したり、参加者を盛り上げたりと、とにかく精力的です。マンサリコ  
氏の研修は“全員参加”を心がけているのが印象的で、様々なテクニ  
ックを取り入れつつ、しっかりと参加者へメッセージを届けていました。

本プロジェクトでは、On the Job Training(OJT)として彼の能力向上の支  
援はもちろんですが、県議会の計画担当課のトップとして、部下である  
モニタリング・評価官を指導することも自身の責務です。

彼らの連携体制の強化が、県議会の能力向上の重要な要素になります。  
少しずつですがマンサリコ氏は現場でのテクニックをモニタリング・評  
価官に指導を始めています。



ロールプレイでこれからすべきことを指導するマンサリコ氏



参加者に説明するマンサリコ氏

反町専門家（研修計画担当）

\*\*\*\*\*

## 実況中継 3. ジャングル奥の村で ーモデルワードプロジェクトー

深いジャングルに阻まれた村には、自分の選挙区内であっても県  
議会議員が行ったことがない村があるようです。先日は、そんなA  
村で研修が行われました。

県議会職員側の都合で我々の出発も遅れ、しかも県議会職員の事  
情で、遠回りでも目的地まで行くことになりました。先に会場入りし  
ている議員に電話で詫言を入れると、電話の向こうから緊張した議  
員の声聞こえます。県職員とともに私たちが到着するまで、議員  
自身がプロジェクトの説明をして時間を稼ぐそうです。しかし、遠



村落ファシリテーター員研修で講師を務めるワー  
ド委員会メンバー

回りをしたので、電話をしたときからさらに 30 分ほどかかりそうです。

そうこうするうちに 3 回電話が鳴り、自信の無さそうな議員の声が電話から聞こえてきます。食事を先に出して、参加者をなだめるように助言しました。そして、ようやく村につきました。

研修では「そもそもワード委員会って何？」という質問が参加者から出て、県議会職員が慌てて地方自治の仕組みから説明をする場面がありました。さらに、内戦後の慣習でしょうか、参加者に食事・交通費・日当を支給している機関・団体があるため、参加者の中にはそれらの支給を目当てに来る人もいます。



自分の村の将来について語る村落ファシリテーター

そこで、将来、同様の活動を行う県議会の負担にならないように、本プロジェクトでは交通費と日当の支援は行えないことを伝えると、納得する人、がっかりする人、拍手する人、怒り出す人と反応が見えます。それでも協力的な参加者達から「村に戻ったら皆と村の将来について話し合います」という表明があり、小さくとも確実な変化がシエラの村に芽生えたと確信しました。

佐藤専門家（村落開発担当）

\*\*\*\*\*

## ニュース 2 : プロジェクトの進捗

2011 年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
村落開発ポリシー、他関連法・ポリシー策定の助言。	2011 年に村落開発ポリシー案を策定。閣議で承認を得て、全国へ普及。	最終案確定。閣議提出の準備完了。
県・村落開発ハンドブックの草案	2011 年 5 月までに目次案を作成。2011 年 6 月からハンドブックの草案作業を行う。	草案を開始。本省との協議に向け、第一案を準備中。
村落開発モデル構築： モデルワードプロジェクト	カンビア県 4 件、ポートルコ県 2 件（社会・経済基盤整備）のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。	各ワードでモデルワードプロジェクトの準備説明会・研修中。
県開発モデル構築： パイロットプロジェクト： フィーダー道路・カルバート改修工事	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始する事業のモデル案を作成する。 フェーズ 1 第 2 ターム（2012 年 5 月末まで）	工事進捗：フェーズ 1 第 1 ターム工事完了。 フェーズ 1 第 2 ターム実施計画策定中。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	ワード委員会、村落ファシリテーター研修実施。年間研修計画策定。

\*\*\*\*\*

## 2.1 研修計画 —北部州他3県への事業展開準備開始—

シエラレオネの北部州には全部で5つの県があります。これまで、北部州にあるカンビア県、ポートロコ県において研修ニーズ調査を実施してきました。他方、先方政府からの強い要請に基づいて本プロジェクト計画に盛り込まれた北部州他3県県議会への能力向上支援を開始する時期に入りました。これまで本プロジェクトにおいてポートロコ県及びカンビア県へ支援し、培ってきた教訓を他県で活用することになります。

9月に県議会職員の研修ニーズ調査のため、北部州他3県であるボンバリ県、トンコリリ県、コイナドゥグ県の県議会を訪問しました。今研修計画事業では、北部州他3県へのプロジェクト展開を計画しており、まずはファーストアプローチということで研修ニーズ調査を実施しました。

今回訪問した3県の県議会庁舎はどの県議会もそれぞれ個性があり、雰囲気が異なりました。しかし、どの県議会も抱えている課題の多くは同じであることがわかりました。特に、県議会内の人事管理や人材育成の計画管理、財務については対応が急務のようです。この調査結果をもとに、県議会職員への具体的な研修を計画しています。

ワード委員会への研修ですが、モデルワードプロジェクトの計画段階のニーズ収集の段階に入っており彼らの活躍が期待されます。

カンビア県では、県議会職員によるワード委員会に対する補完研修と村落ファシリテーター研修、ポートロコ県では、ワード委員会による村落ファシリテーター研修を実施しました。研修の対象者はワード委員会、村落ファシリテーターですが、同時に一連の研修支援は県議会職員への On the Job Training (OJT) でもあります。

今回の研修は、県議会が主体となって実施しました。その為、両県議会で提案した研修内容が異なり、研修でのファシリテーター、説明項目、配布資料もカンビア県とポートロコ県で若干異なる結果となりました。これらの研修で得られた情報は、村落開発モデルを構築するモデルワードプロジェクトの活動に活用されることが期待されます。



ボンバリ県県議会での聞き取り調査



研修で例題に答える参加者

反町専門家（研修計画担当）

\*\*\*\*\*

## 2.2 県開発モデル構築：フィーダー道路パイロットプロジェクト –2年目の挑戦–

シエラレオネでは、都市間を結ぶ幹線道路を離れると舗装道路は皆無に近く、農村地域に住む人々にとって地域内の道路の整備は生活の質の向上のためにも重要です。フィーダー道路改修プロジェクトは、カウンターパートの道路改修と効果的な事業実施のための能力向上を目的として実施しています。

さて、フィーダー道路改修パイロットプロジェクトは2年目を迎え、大きなテーマを据えて実施しています。そのテーマですが、県議会が主体となり他のセクター、特に道路局と協調しながら効果的な計画を立て、それに基づいて道路を選定し改修することです。

計画については、関係者間で確認した基準に沿って改修道路リストを作成します。そのリストに従い、両県議会で一路線ずつ選定しました。このリストは他ドナーのプロジェクトにも利用することを考えており、世界銀行プロジェクト、アフリカ開発銀行プロジェクトでの改修道路の選定にも利用されています。

選定されたルートは最終的に県議会での承認が必要です。ポートルコ県は、事前に説明をしておき問題なく承認されましたが、カンビア県は、事前の説明の行き違いがあったのか、議会で議長が直接説明を受けていないと反論し、議論がストップしました。その後、日を改めて主任行政官が粘り強く説明を続け、予定より2週間遅れて選定ルートが承認されました。いかに滞りなく関係者間で情報を共有するかは、今後のプロジェクト運営に対する課題です。

作業の協調については、技術的な分野は道路局が担当するため、その進捗の共有や住民との調整が県議会の重要な作業となります。また、フィーダー道路の維持管理も県議会が担当しているため、道路局との密接な協力体制が不可欠です。これらについては、まず県議会のエンジニアが中心となり、各週の進捗報告を作成し、主任行政官等と共有しています。

作業内容も皆で共有することにより透明性も確保できます。課題としては、忙しく人数も限られる県議会では、進捗管理がうまくできないことも多く、プロジェクトの支援が必要なこともまだ多くあります。

現在、両県とも測量から設計、入札図書の実施作業を実施しています。今後とも県議会、道路局の共同作業を継続し、モデルとなる体制を構築していきます。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）



カンビア県改修道路始点の村。取付け道路がない。



ポートルコ県改修道路始点の村。幹線道路沿い。



カンビア県議長(左)と主任行政官(左から2人目)。最後は両者にて合意。

\*\*\*\*\*

### 2.3 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト —もどかしくも素晴らしい日々—

シエラレオネでは雨季の8月は田植え等の農繁期になり、村人は家族総出で非常に忙しくなります。さらに、今年の8月はイスラム教の断食月と重なったので、イスラム教徒が多く住むカンビア県とポートロコ県の住民はかなり忙しい一か月だったようです。



ワード委員会メンバーによる村落ファシリテーター研修

このため、8月に予定されていた村落での住民の話し合いも行われず、モデルワードプロジェクトは想定内ですが遅れ気味です。反町研修専門家が中心になって支援しているワード委員への再トレーニング等の成果を受け、10月後半に入ってようやくプロジェクトのニーズが村からワードを経て県議会に集まる体制が整いつつあります。

当初はモデルワードプロジェクト実施要領をよく理解していなかったモデルワードの県議会議員やワード委員会のメンバーも、各村でファシリテーター向けトレーニングで講師を務めている間に自信を持って説明できるようになってきたようです。

住民から選ばれた村落ファシリテーターも自らの村の声が県議会まで届く可能性を知り、大変喜んでいます。当初は躊躇していた県議会職員も、プロジェクト発掘・形成の初期段階から地域住民を巻き込んでいく活動に積極的に関わっています。



村落ファシリテーター研修の風景：佐藤専門家（左）と隣のワード委員会メンバー

外国人である我々専門家の存在感をできる限り小さくして、“スムーズに村落住民を動員して施設を建設・改修し、施設の持続的な維持管理を可能にするためには、県議会がどのように村落開発プロジェクトを進めるべきかを県議会職員自身が気づいていく”という活動の一つ一つが村落開発モデルを構築していきます。もどかしい日々ですが、県議会職員の日々の成長が見られる素晴らしい毎日です。

佐藤専門家（村落開発担当）

\*\*\*\*\*

### 2.4 業務調整 —赴任3ヶ月を経過して—

赴任して3ヶ月半が経ちました。相変わらず壁をはさんだ両隣（複数の家族が同じ一軒家で暮らしています）からは毎日賑やかな声が聞こえてきます。

さて、プロジェクト現場ではモデルワードプロジェクト（フェーズ1では6つのモデルワード支援プロジェクト）とフィーダー道路改修パイロットプロジェクトの初期段階にあります。

現在、地域の社会生活や経済基盤を改善するために、県議会がワード委員会を通じて、村民の声をくみ上げ、県議会（行政）と住民代表が協働して、いかに効果的・効率的な事業が出来るかを実証するモデルワードプロジェクトのために、各村で選ばれた村落ファシリテーターの育成がなされつつあります。

選出された村民の皆さんには日常の時間を犠牲にしてご足労願わなければなりません。ある村では間違ったメッセージによって交通費は出るのか？といった声もあったと伺います。交通費は出しませんが、村民の方にご飯の炊きだしをお願いし、皆で一緒に食べてもらいます。材料費はプロジェクトが持ちます。



研修参加者同士で話し合うワード委員会メンバー。

直接の裨益者は村民各自なのですが、いきなりオーナーシップというマインドが醸成されるというものではありません。時間を要するプロセスとなります。先ずは住民を支援する県議会職員と住民代表者が現場に出かけ、そして我慢強く住民に働きかけるという相当に地道な努力がプロジェクト現場でなされています。村落は居住地が散在しています。通信インフラも整備されていません。そして人も宗教も伝統慣習も政治も絡み合っていて複雑化且つダイナミックです。

県議会にはダイナミックな村落開発を支援する体制整備と実施能力が求められますが、広範囲な業務分野を遂行するための人材が不足しています。加えて活動予算の不足、移動手段の欠如、そして諸々の制限要因が存在します。必要なことは、悲観的な制限要因の存在を冷静に認識しながら持続的な村落開発管理を目指すことにあります。

本プロジェクトを仕掛けていくことにより、具体的に何が実証でき、そのうち重要且つ汎用性が高いものは何なのか？を県開発・村落開発ハンドブックに纏め上げます。どんな事例が持続性のある効果の高いモデルとなって残り続けるのか？持続性がどのようにして担保されるのか？されるべきなのか？ 何とか一歩でも前進あるのみです。

田中専門家 （業務調整担当）

\*\*\*\*\*

## 大好評のコラム：

### コラム1 シエラのチカラ：ピッチの料理人

JICA 新人職員が行う在外事務所研修（OJT）の一環として、9月上旬に本プロジェクトにお邪魔させて頂きました。その中で最も印象に残っているのは、キャパシティ・デベロップメントの重要性が強調されていた点です。平林リーダー曰く、「我々が主役であってはならない。我々は影で支える役割でなくてはいけない」。

さて今回は、そんな影で支える役割を担っている専門家を、さらに影から支えている人物にスポットライトを当てます。主役は、宿舍の料理兼掃除担当として働いている Kelfala さん。実は彼、元シエラレオネ代表のサッカー選手という、すごい経歴の持ち主なのです！10歳の頃にサッカーをはじめ、19歳からサッカー選手としてプレー。そして、活躍が認められ代表チームに召集され、対マリ代表戦の勝利（1-0）などに貢献。その後セネガルのチーム等を渡り歩き、33歳で引退。現役時代は、得意の左足で中盤を支配する、ドリブラーだったとか。そんな彼も、今は3人の男子・1人の女の子を持つパパ。息子がサッカー選手になるのを密かに夢見つつ、ボールなどを買ってあげるそうです。ちなみに、好きなチームはイングランドのチェルシーで、好きな選手も同じくチェルシーのドログバ。



料理中の Kelfala さん

選手としてプレーする傍らホテルでも働いていた Kelfala さんの料理は、美味しいと評判です。JICA 歴は本プロジェクト以前からと長く、日本人の舌をよく理解している腕前で多く専門家を支えてきました。

私も、滞在した1週間弱の間、ダイエット中だということを忘れて美味しく頂きました。ポートロコ県の専門家宿舍を訪れば、Kelfala さんの得意料理 “オクラライス” が食べられるかも！？



戦争で失われた品も多い中、手元に残されている貴重な現役時代の写真



オクラライス

(岩崎職員：新人職員研修にてシエラレオネ滞在中に執筆)

\*\*\*\*\*

## コラム2 シエラのチカラ：光の道！？

雨季ですが天気のよい日中のことです。ポートルココ県の道路サイトに行こうとした時、シエラレオネ道路局のエンジニアのコロマ氏が言い出しました。「現場まで別の道を通って終点から行ってみよう、こっちの方が近い。川渡っていくけど」。「OK!」ということで、いつもは幹線道路沿いの始点から行くところを別の道から行ってみました。

その途中、幹線道路から川の方面に入った道で、ラテライトの茶色の道から銀色の道になりました。コロマ氏によると、この辺は鉄鉱石の宝庫で、そのかけら（鉄紛？）が道路表面にでているとのことでした。

ポートルココ県には大きな2つの鉱山会社が操業しており、そのうちの 하나가この近くの鉄鉱石を採掘しているようです。そういえば、近くには大きく積み上げられた土の塊のようなものも見えます。この会社は鉄鉱石をポートルココ県にある港までトラックで運ぶそうです。途中の道を整備し、幹線道路を横断する箇所ではトンネルを設置していました。ちなみに、もうひとつの会社は線路を敷設しており、鉄道で鉄鉱石を運搬します。

走っていると、鉄紛（？）に光が反射し、光の道ようになってきました。数百mの距離ですが、実際に通っていると優雅な気持ちになりました。写真であまり表現できていないのが残念です。このような資源が普通に



路面の拡大写真。鉄物破片が反射し道路が光って見えます。

あるシエラは本来豊かな国になる要素がある国です。



ラテライトの道路と違って道路が銀色に。鉄粉に光が反射していました。写真では分かりませんね。



鉱山会社によって幹線道路下に建設された鉄製パイプトンネル。トラックがこれを通り、港まで鉄鉱石を運びます。

さて、この道を抜けて10分ほどで川まで来ました。道路のサイトはこの対岸です。。。【続く】

(宿谷専門家)

\*\*\*\*\*

### コラム3 シェラのチカラ：速報 シェラレオネ消防隊のチカラ！

10月20日、外で用事を済ませ、午前10時過ぎに本プロジェクトが事務所を構える地方自治地域開発省がある合同庁舎に到着。7階にある事務所に入り、いつもどおり本省職員と挨拶をして、仕事開始の準備を始めました。

すると外から人々の騒ぐ声が聞こえてきます。職員も人々の騒ぎに気づきました。事務所と廊下を挟んだ部屋の外から黒煙と熱が入ってきます。

職員は部屋に引火しないようにカーテンを急いで取り外していますが、少々パニック状態です。その直後、3階から火災が発生していることを職員が教えてくれました。そして直ちに避難することになりました。

間もなく消防隊が来て、火災発生から2時間ほど経って無事鎮火しました。幸いけが人はありませんでした。火事の原因は未だにわかりません。

鎮火まで、消防隊の活躍を目の当たりにしました。これから、その舞台裏を実況中継します。

通報から数十分後、「ウー、カンカンカン」というサイレンを鳴らしながら、さっそうと消防車2台が火災現場近くに登場しました。この様子を見て、合同庁舎1階にある食堂の従業員は、飛び上がって喜んでいました。かけつけた消防士がはしごをかけ、ホースを手に持ち、いよいよ消火体制が整いました。

消防車から放水開始！みんながホースの先に注目し、そこから放水されるのを期待していると、別の場所からジャーっと水が噴き出す音が聞こえてきます。どうやら消防士が消防車にある2つの放水口のうち、ホースのついていない口の栓をひねってしまったようです。あわてて、水を止めようとする消防士。それをよそに、ここぞとばかりにポリタンクを持って水を汲みに集まる人たち。

放水栓を閉め、ようやく水が止まりました。次は、ホースのついていない側の口を開いたので、ホースが見る見るうちに膨れて、勢いよく水が進んでいくのがわかります。



プロジェクト事務所（7階）の入っている合同庁舎ビル4階から出火



消防隊による必死の消火作業



消防車から水があふれ出す

いよいよ放水か！と誰もが期待しました。しかし、今度はホースの継ぎ目の隙間からプシューっと音を立て水が周辺に飛び散ります。周辺の野次馬が逃げ回ります。

この水漏れのため、水圧が足りず、ホースの先まで水が届きません。その後、有志数人がホースの隙間を両手で押さえ、水漏れを何とか止めました。



ホースの継ぎ目から水が噴き出す



必死で水漏れ箇所を押さえる人々

すると間もなく、ホースの先から勢いよく水がでました。放水作業が始まり、その約1時間後に無事消火作業が完了しました。

放水されるまでに、いろいろなことが起こりましたが、シエラレオネの消防隊にシエラレオネのチカラを見せていただきました。これからの消防隊の益々の活躍を心から祈ります。

(平林リーダー)

\*\*\*\*\*

#### \*編集室からのお知らせ

「コラム：ごつつあんです！シエラレオネ 第16話」は都合により次号に掲載します。ご期待に沿えるよう、取材を続けます。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、佐藤専門家（村落開発）：2011年10月実績

